前期	小２ ３学期	“はい”と“いいえ”	※学級活動など

１　目　標

○　自分の意思や回答を表すために、「はい」「いいえ」「わからない」の３つの言い方があることに気付き、適切な方法で自分の意思を伝えることができるようにする。

２　指導のポイント

○　最も基本的な意思や回答の伝達方法を学習する。

○　うなずくことも大切な表現であることに気付くようにする。

３　準備するもの

・「“はい”と“いいえ”」プリント　・劇の台本　・返事をする時のポイント

４　事前・事後の活動計画

事　前	本　時	事　後
事前に質問ごっこ遊びを行い、答えることを意識付けておく。	「“はい”と“いいえ”」	「返事をする時のポイント」を教室に掲示し、自分の意思や答えを、はっきりと伝えることができているか日常生活で振り返る。

５　本時の展開

	学　習　活　動	指 導 上 の 留 意 点
導入（つかむ）	１　劇を見て、うまく答えられなかった経験について発表する。 ２　めあての確認をする。 **へんじのしかたについて考えよう。**	○　うまく答えられずに、もじもじしたり、恥ずかしがったりしたことを思い出すようにする。
展開（さぐる・見つける）	３　遊びに誘った友達の気持ちや、どのような返事をすればよいかを考える。 例）友達：どうして返事しないのかな 一緒に遊びたくないのかな。 本人：うん。ありがとう。 今日は、やめておく。 ４　相手に伝わる「返事をするときのポイント」を覚える。 **＊返事をするときのポイント「“カメ”を“おく”」** **①体（からだ）を起こして，②相手の目（め）を見て，③大（おお）きな声ではっきりと，④首（くび）を動かす。** ５　「はいといいえ」のプリントを使って、返事の練習をし、「返事をするときのポイント」を身に付ける。	○　もじもじせず、はっきり答えてほしいことに気付かせる。 ○　自分の意思や答えを伝えるには、「はい」「いいえ」「わからない」などの言い方があること、うなずくことも大切な表現であることを考えるようにする。 ○　返事をするときの言い方について考えさせ、グループで話し合う場を設定する。 ○　返事をするときのポイントを使って、ロールプレイをする。役割交代して繰り返し行うようにする。 ○　「はっきり言えてよかった」や「はっきり返事をしてもらって分かりやすかった」などを感じることができるようにする。
まとめ（決める）	６　学習の振り返りをする。 「“はい”と“いいえ”」のプリントに、これから実践しようと思う、相手に伝わる返事の仕方を書き、発表する。	○　日常生活においても、自分の意思をはっきりと伝えることができるように日頃から取り組んでいくことを意識させる。

参考文献　社会性と情動の学習（ＳＥＬ－８Ｓ）の進め方　小学校編　小泉令三／山田洋平（ミネルヴァ書房）（ユニットC2）

前期	小２ ３学期	おこっているわたし	※学級活動など

１　目　標

○　怒っているときの表情の特徴や怒りのレベルに気付き、適切な怒りの表出方法があることを知ることができるようにする。

２　指導のポイント

○　怒っているときの特徴を知ることをねらいとする。

○　人によって感じ方や強さが違うことを知るために、同じ状況でも感情の強さが違うことに気付くようにする。

○　人によって感じ方の違いに気付くことができるように、多くの児童に発表の機会を与えたり、黒板にレベルごとの票数を書いて視覚的に訴えたりするなどの工夫を行う。

３　準備するもの

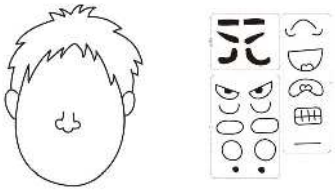
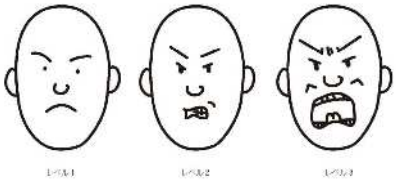
・「おこっているわたし」のプリント　・「ふっくん」ボード　・「ふっくん」の顔パーツ

・「怒りレベル１～３」の絵　・事例の絵①、②

４　事前・事後の活動計画

事　前	本　時	事　後
事前に自分の気持ちについて注目させる声かけをおこなう。	「おこっているわたし」	自分の気持ちを適切に伝えることができるように、日常生活で振り返りを行う。

５　本時の展開

	学　習　活　動	指 導 上 の 留 意 点
導入（つかむ）	１　自分の気持ちについて考える。 ２　めあての確認をする。 **おこっている時の　気もちのつたえ方について、考えよう。**	○　教師がいろいろな表情をして、様々な気持ちがあることに気付くようにする。
展開（さぐる・見つける）	３　「ふっくん」ボードに怒っている表情をつくり、発表する。  ４　表情を見て、怒りにもレベルがあることを知る。  ５　怒りの適切な表現方法について考える。 （１）　ロールプレイを行う。 ①　突然消しゴムを取られる。 ②　順番をぬかされる。 （２）　言葉での伝え方など、適切な表現方法を考える。	○　「ふっくん」ボードに、顔のパーツを使って怒っている顔を表現させる。 ○　怒っているときの表情に注目させ、怒っている時の特徴を理解できるようにする。 ○　「怒りのレベル１～３」の絵を使い、同じ状況でも、人によって怒りの強さが違うことに気付くようにする。 ○　絵を見て怒りを表現し、怒りの強さによって顔や声の大きさが変わることに気付かせる。 ○　事例①②をもとに、自分の怒りレベルを確認させる。黒板に票数を書いて、人によってレベルが違うことを視覚的に分かりやすくする。 ○　児童に役割演技をさせ、適切な表現方法について、考えることができるようにする。
まとめ（決める）	６　学習の振り返りをする。 「おこっているわたし」のプリントに、怒った時の気持ちの伝え方を書き、発表する。	○　日常でも、自分の気持ちを適切に伝えることができるように日頃から意識させる。

参考文献　社会性と情動の学習（ＳＥＬ－８Ｓ）の進め方　小学校編　小泉令三／山田洋平（ミネルヴァ書房）（ユニットＢ１）

前期	小２ ２学期	とてもうれしい	※学級活動など

1　目　標

○　紙芝居を通して、自分の気持ちを相手に伝えることの大切さを知り、自分の気持ちを自分の言葉で伝えることができるようにする。

2　指導のポイント

○　多くの気持ちを出せるように「うれしいこと、しんぱいなこと」の学習後に実施することが望ましい。

○　どうして、自分の気持ちを言葉で伝えなければいけないのかを考えるようにする。

3　準備するもの

・「とてもうれしい」プリント　・紙芝居①～④　・「気持ちを伝えよう」　・サイコロ２つ

4　事前・事後の活動計画

事　前	本　時	事　後
「おこっているわたし」「いろんな気もち」「うれしいこと、しんぱいなこと」で、学習したときのいろいろな気持ちの表現を思い出す。	「とてもうれしい」	自分の気持ちを伝えることができるように、日常生活で振り返っていく。

5　本時の展開

	学　習　活　動	指 導 上 の 留 意 点
導入（つかむ）	1　紙芝居を見て、どうしてかなちゃんは泣きながらまさる君をたたいたのかを考える。 2　めあての確認をする。 **自分の気もちを　相手に分かりやすく　つたえる方ほうを　考えよう。**	○　紙芝居を通して、かなちゃんの立場になって考えさせ、自分の気持ちを伝えなければ、相手は分からないことに気付くようにする。
展開（さぐる・見つける）	3　気持ちを表す言葉には、どのようなものがあるか発表する。 4　紙芝居のかなちゃんは、どのようにまさるくんに気持ちを伝えればよかったのかを考える。 **＊気持ちの伝え方のポイント** **「私（ぼく）は，・・・（感情語）です。」** 5　「とてもうれしい（きもちでビンゴ！）」を行い、気持ちの伝え方を練習する。 **「きもちでビンゴ！」のルール** **①　マスの空欄に２～１２までの数字を書いて，ゲームの準備完了。** **②　先生が２つのサイコロを振り，出た目の合計を伝える。** **③　該当する数字のある児童は，マスに書かれた場面と，そのときの自分の気持ちをグループ内に伝える。** **④　伝え終わったら，そのマスに色を塗る。** **⑤　②に戻ってくり返す。** **縦，横，斜めがそろったら，ビンゴ！　※終了のタイミングは適宜調節。**	○　今までの学習を振り返り、気持ちを表す言葉には、どのようなものがあるか全体で確認する。 ○　かなちゃんの表情を見て、どのような気持ちなのかを考え、自分だったらどのように伝えるかを話し合わせる。 ○　「気持ちを伝えよう」を使って、伝え方の練習をする時間を設定する。 ○　同じ場面でも、人によって感じ方が違うことに気付くようにする。
まとめ（決める）	6　学習の振り返りをする。 「とてもうれしい！」プリントに、気持ちの伝え方について、自分が気を付けていきたいことを書き、発表する。	○　「気持ちを伝えよう」を使って、日頃から自分の気持ちを伝えることができるように意識できるようにする。

参考文献　社会性と情動の学習（ＳＥＬ－８Ｓ）の進め方　小学校編　小泉令三／山田洋平（ミネルヴァ書房）（ユニットＣ１）

前期	小２ １学期	びょうきにならないために	※学級活動など

１　目　標

○　生活のリズムを整える、偏食しない、食事やおやつの前には手を洗う、清潔な衣類を着るといった習慣が、健康管理・病気予防にとって重要であることを知り、自分の健康管理のために目標を立て、実践する意欲を高めるようにする。

２　指導のポイント

○　夏場は、夏バテ防止のための水分補給と帽子の着用、冬場は、インフルエンザ等の感染症予防、部屋の換気など病気を予防に視点をおいて学習する。

○　偏食については、給食指導や生活科の学習と関連付けて実施する。また、手洗い・着替えなどの身の回りの清潔については、３年生の体育科学習につながるように指導をする。

○　紙芝居や手洗い動画を用いて視覚的に、課題をとらえることができるようにする。

３　準備するもの

・「びょうきにならないために」プリント　・紙芝居①～⑦

４　事前・事後の活動計画

事　前	本　時	事　後
病気になったことや学校を休んだことを想起させる。	「びょうきにならないために」	「病気予防のポイント」を教室に掲示し、日常生活で振り返っていく。

５　本時の展開

	学　習　活　動	指 導 上 の 留 意 点
導入（つかむ）	１　病気になった経験について、話し合う。 ・インフルエンザ ・風邪　・りんご病 ・ふうしん　・おたふくかぜ ２　めあての確認をする。	○　病気で学校を休んだ経験から、様々な病気があることを知り、病気を防ぐ方法に目を向けさせる。新型コロナウイルスの感染状況等も踏まえ、個人の状況などに十分配慮をした上で指導する。
	びょう気にならないためにどうしたらよいか考えよう。	
展開（さぐる・見つける）	３　紙芝居を見て、どのような状況が病気につながるのかを考える。 ・手を洗っていない。 ・お風呂に入っていない。 ・着替えをしていない　など	○　紙芝居の様子から、病気を引き起こす原因に目が行くように、小グループで話し合いを行った後、発表する時間を設定する。
	４　病気予防のポイントを知る。	○　病気の予防の方法を知ることができるように、病気予防のポイントをまとめて説明する。
	＊病気予防のポイント「病気予防の“ハウスキ”ーピング」 **①早寝（はやね）早起き、②うがいと手洗い、③好（す）き嫌いをなくす、④着替（きが）え**	
	５　病気予防のために、ばい菌を体に入れない方法を知り、手洗いの方法を身に付けるクイズをする。 ※　手洗い動画等の視聴も効果的である。	○　ばい菌を体に入れない方法として、手洗いや着替えが大切なことをできるように、クイズ形式にして考えさせるようにする。 ○　手洗い動画等を視聴し、正しい手洗いについて理解できるようにする。
まとめ（決める）	６　学習の振り返りをする。 ・　「びょうきにならないために」プリントに授業の感想を書き、これから頑張りたいことを２つ選択する。	○　日常生活において、病気にならないために日頃から取り組んでいくことを意識させるように、自己決定できる場を設定する。

参考文献　社会性と情動の学習（ＳＥＬ－８Ｓ）の進め方　小学校編　小泉令三／山田洋平（ミネルヴァ書房）（ユニットＦ３）

前期	小２ ２学期	何でも食べよう	※学級活動など

１　目　標

○　自分の好きな食べ物と苦手な食べ物が説明できるとともに、偏食しないで何でも食べることの大切さを知り、苦手な食べ物を減らす目標を立て、努力できるようにする。

２　指導のポイント

○　紙芝居の中で、教師が役割演技をすることで、視覚的に課題をとらえることができるようにする。

○　３色食品群分布図を用いて、児童に好きな食べ物・苦手な食べ物が栄養の３つのグループに分けることができることに気付くようにする。（栄養教諭がいる場合は、担任と役割分担をする。）

○　授業の最後に、自己決定した目標を達成することができるように、苦手な食べ物に挑戦できたかを１週間チェックするようにする。（その際、家庭での食事に配慮してもらうように、あらかじめ保護者にお願いしておく。）

○　アレルギーがある児童に配慮し、苦手なものと食べられないものとは違いがあることを抑えておく。

３　準備するもの

・「なんでもたべよう」プリント①、②　・「栄養博士」のペープサート　・３色食品群分布図（２種類）

・紙芝居（８枚）　・食べ物のカード（黒板での掲示用）　・色鉛筆（赤、黄、緑）

４　事前・事後の活動計画

事　前	本　時	事　後
給食時間を活用して、児童に食べ物に関して興味をもたせる。	「何でも食べよう」	苦手な食べ物を減らすという目標を日常生活においても継続していく。

５　本時の展開

	学　習　活　動	指 導 上 の 留 意 点
導入（つかむ）	１　健康な体のよさについて考える。 ２　めあての確認をする。 けんこうになるために、たべものについてかんがえよう。	○　健康な体だと、どんなよいことがあるかという発問から、健康と食事の関係に気付き、本時のめあてに向かうようにする。
展開（さぐる・見つける）	３　「なんでもたべよう」プリント①に自分の好きな食べ物・苦手な食べ物を書き、発表する。 ３つの食品群については、家庭科の学習で取り扱うが、給食黒板等を用いて指導を行うようにする。 ４　紙芝居を見ながら、偏食しないことの大切さを知る。 紙芝居視聴後の発問例 ・　まさるくんがなおしたらよいところはどこかな。 ・　まさるくんはどうしたら健康になるかな。 ５　好き嫌いをなくすための目標を立てる。 ※　苦手をなくすために自己決定をする場面を設定するが、アレルギー等がある児童に配慮して、適宜声掛けを行うようにすること。	○　多くの児童が発表できるようにする。 ○　児童が食品には、３つのグループがあることに気づくことができるようにするために、栄養の３グループに分けて板書する。 ○　紙芝居に登場する「まさるくん」が健康になるにはどうすればよいかをグループで考え、発表する場を設定する。 ○　「栄養博士」の話を聞いて、好き嫌いをしないことによさに気付くようにする。 ○　児童には具体的な目標を書かせるように指導する。 ○　「なんでもたべよう」プリント②を配布し、やり方を説明するとともに、児童が好き嫌いをなくしていこうとする意識をもたせる。
まとめ（決める）	６　学習の振り返りをする。 ・　「なんでもたべよう」プリントに授業の感想を書く。	○　日常生活においても、苦手な食べ物を少しずつ減らすという目標を達成できるように、チェックシート等意欲付けをする。

参考文献　社会性と情動の学習（ＳＥＬ－８Ｓ）の進め方　小学校編　小泉令三／山田洋平（ミネルヴァ書房）（ユニットＡ４）

前期	小２ １学期	自分のもちもの	※学級活動など

１　目　標

○　持ち物に記名することの大切さを知り、自分の持ち物には名前を書く習慣を身に付けるようにする。また、整理整頓の大切さを理解すると同時に、上手な整理整頓の方法を知り、実行できるようにする。

２　指導のポイント

○　生活科「すたあとぶっく」や道徳の教科と関連付けて実践できるようにする。

○　整理整頓の仕方については、学校によって状況が異なるため、実態に合わせた方法で整理整頓の指導をしていくようにする。

○　授業だけでなく、朝の会や帰りの会などの時間に整理整頓タイムを設定し、実践意欲を持続させるようにする。

○　家庭と連携して文房具への記名を徹底し、家庭での片付けへの励ましなどにより、記名と整理整頓の定着を図るように学級通信等でお知らせをするようにする。

３　準備するもの

・クラスの落とし物入れ

・傘立ての写真（自分のクラスの傘立てを撮影したもの）

・ノート、教科書、筆箱、ハサミ、のり、ものさし、色鉛筆（整理整頓されていない机の中の例示用）

４　事前・事後の活動計画

事　前	本　時	事　後
学級の写真をみて違いに注目させる。	「自分のもちもの」	帰りの会にて整理整頓タイムを継続することで児童の意識を高める。

５　本時の展開

	学　習　活　動	指 導 上 の 留 意 点
導入（つかむ）	１　整理されている様子の部屋とそうでない部屋の写真を提示し、２つ写真からに整理整頓されている状態とそうでない状態の違いに気付く。 ２　めあての確認をする。 せいりせいとんすることのよさについてかんがえよう。	○　教室が整理整頓されている状態のよさに目が向くように、その時の様子なども合わせて考えることができるようにする。
展開（さぐる・見つける）	３　持ち物を大切に使う方法を考えるともに、物をなくさないためには、どうしたらよいかを考える。 ４　名前の書かれていないノートがあるかを確認して、無記名の物があれば、名前を書く。 ５　「整理整頓」のポイントを知る。 ＊整理整頓のポイント「整理整頓　“おすもー”さん」 ①置（お）く場所を決める、②ゴミを捨（す）てる、③元（もと）に戻す ６　「整理整頓のポイント」に従い、自分の机の中を整理する。 ７　整理整頓の前後を比べて、その大切さを知る。	○　学校には同じ持ち物が多いため、名前のない落とし物は持ち主がわからないことを知り、記名の大切さを理解させる。 ○　教室に備え付けてあるロッカーや物入れの実態に合わせて指導する。記名の際には、本人に確認の上、記名を行うよう配慮すること。 ○　帰りの会で整理整頓タイムを設定したり、整理整頓チェック表を作って子どもの頑張りを価値付けする時間を設定したりする。
まとめ（決める）	８　学習の振り返りをする。 ・　プリントに授業の感想を書き、これから頑張っていきたいことに手を挙げる。	○　日常生活において、自分の持ち物が使いやすくなるように、整理整頓を日頃から取り組んでいくことを意識させる。

参考文献　社会性と情動の学習（ＳＥＬ－８Ｓ）の進め方　小学校編　小泉令三／山田洋平（ミネルヴァ書房）（ユニットＡ３）